

精神科医療における身体拘束とその人権状況 ～身体拘束への注目が集まるなか作業療法士は何をすべきか～

杏林大学 保健学部 リハビリテーション学科 教授
一般社団法人日本身体拘束研究所 理事長
日本病院・地域精神医療学会 副理事長
NPO法人にいがた温もりの会 理事

長谷川 利夫 氏

日時

2025年

11月30日



14:15-16:15

受付開始13:45

会場

茅ヶ崎市勤労市民会館
3階 B研修室

JR茅ヶ崎駅北口
徒歩 約5分

〒253-0044 茅ヶ崎市新栄町13-32 ☎0467-88-1331

神奈川県作業療法士会
会員 : 1,000円

協会員 他県士会会員
: 1,500円

非協会員 : 2,000円

他職種 : 1,500円

学生の方 : 無料

内容

精神科医療において身体拘束を受ける人の数は近年10年で2倍となり、その後も高止まりを続け、今でも1万人を超えている。

2017年に神奈川県内の精神科病院に入院したニュージーランド国籍のケリー・サベジさん（当時27歳）が、身体拘束された後に心肺停止となりその後搬送先の病院で亡くなった。これを機に身体拘束の急増と身体拘束死の問題は、メディアでも広く取り上げられるようになり、国会でも議論が行われている。

講師の長谷川利夫氏がサベジさんの母国のニュージーランドを訪問し、その身体拘束の状況取材した内容はNHKでも番組化され、2022年には国会の予算委員会でも参考人として問題提起している。呉秀三が拘束具を焼いて作業を始めたのが作業療法の源流である。作業療法士は、看護師、医師ともまた違った取り組みができるのではないかと共に考えたい。

申し込み方法

対象者：（一社）神奈川県作業療法士会会員・非会員（他職種や学生の方も可）
本研修会は日本作業療法士協会生涯教育ポイントの対象です。

*11/28(金)までに下記PeatixのURLまたは左下のQRコードからお申し込み下さい。 <https://peatix.com/event/4625542>

定員45名



お問合せ：神奈川県作業療法士会制度対策部 社会保障制度班（担当：山根）
E-mail：kotseidosyakaihosyou@gmail.com